

津山の弥生土器3（器台形土器）

中山 俊紀

中期の器台形土器

美作地方で発見された大形の器台形土器で、今のところもっとも古い例は美作町高本遺跡1号住居址出土のものであろう（1）。口縁部を欠くが、伴出土器から中期中葉に遡るとみられ、胴部及び脚部に凹凸の激しいいわゆる凹線文が巡らされている。

津山市では、これに続く器台形土器として紫保井遺跡（2）や崩塚遺跡（3）例、後葉のさらに新しいものとして押入西遺跡やビシャコ谷遺跡ではほぼ完形に復元できる同種の個体が発見されている。

これらは同形同大の大形器台で、特に特殊な土器というわけではなく、その破片は美作の中期後半の集落遺跡ではよく見かけられる。当該期の弥生土器構成上不可欠な要素であると考えられ、成立当初から大きな変化を経ず一貫した推移をたどる。

口縁部の作りの違いにより壺と同様、端部肥厚形のA・水平拡張形のB・垂下形のCの三種に区分することができる。おおむねA・Bが古くそれぞれオーバーラップしながら垂下形のCに収斂してゆき、基本的に一種とみてよいだろう。

器形変化の方向は、細身の胴部をもつものから寸胴中年太りのタイプのものへ、垂下口縁は垂下の度合いが増していく。

装飾の変化では、古手のものには長方形透孔をもつものが多く、三角形透孔、円形透孔などへと推移するらしい。その三角形透孔は小形化の方向をたどり、高坏脚部文様の変化同様貫通せず器壁表面の篋描文様として痕跡化するものがある。

すべての個体の胴部・脚部は一貫して凹線文で飾られているが、古手のものは凹線文帯ないしは文様帯と間帯の区分が明瞭で、新しいものほど全面を凹線文で埋め尽くす傾向がある。付随する装飾文様は、壺・高坏など他の器種とほぼ同様な要素の変化をたどっている。

この種の大形化した中期後半に属する器台は東中国山地以外の地域ではあまり例を見ず、あっても高本遺跡のように中期中葉にまで遡る例は少ない。畿内第4様式にも大形器台が散見されるが、起源の問題は別として装飾性に乏しく一見して別の土器伝統に属すと判断される。所属時期も一般に新しいようである。

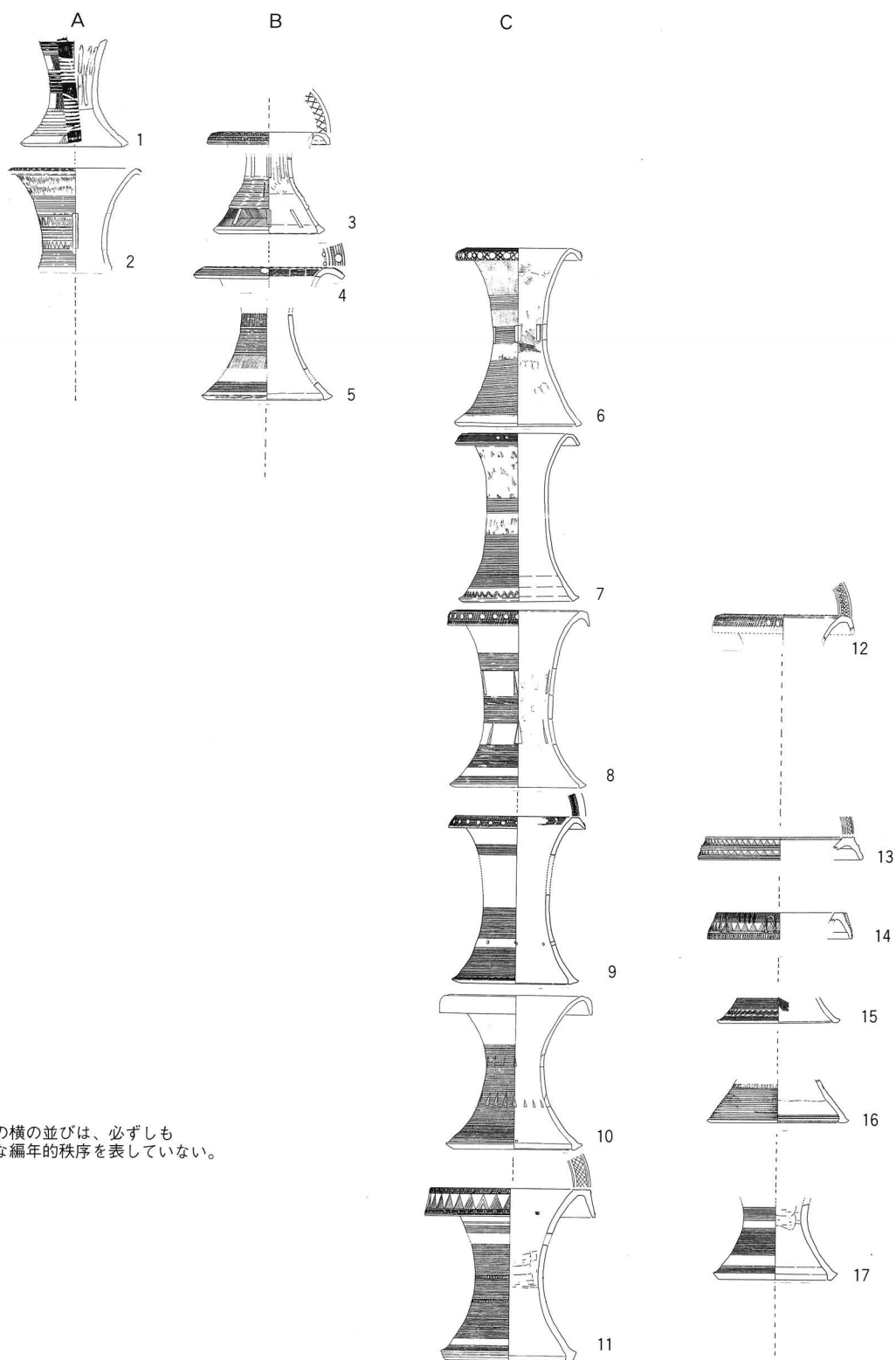
この種の器台は、東は加古川上流域から西は久世・勝山地域や新見方面まで分布するらしく、南では岡山市の雄町遺跡・百間川遺跡で発見されているが、そこでは今のところ当該期の主要な土器構成要素とはなっていない。

装飾要素の強いこの種の大形器台が東中国山地でいち早く発達したとすれば、後期に墓地遺跡で発見される装飾要素の強い大形器台と対比し、一考に値するかもしれない。

後期の器台形土器

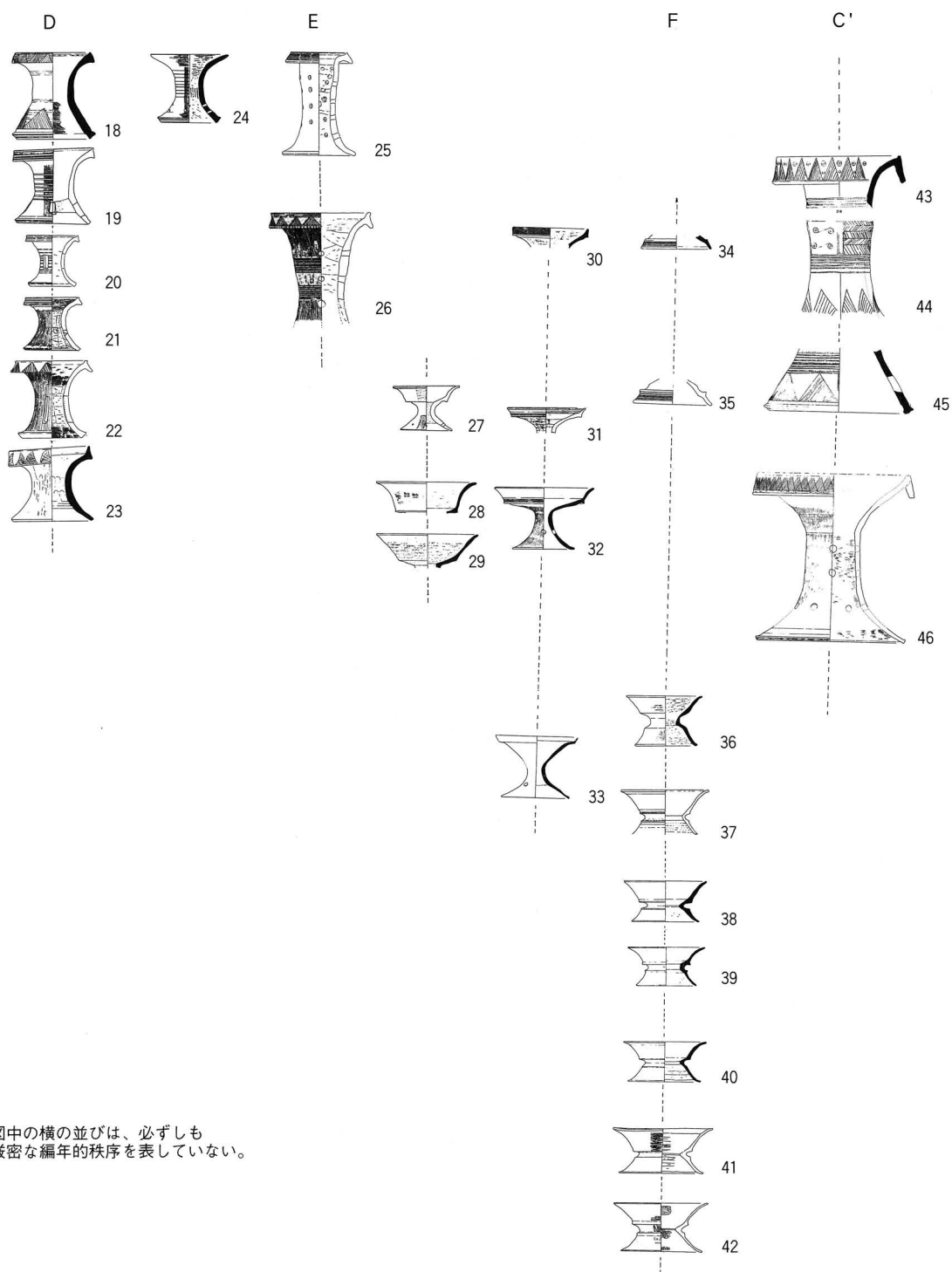
後期の器台の特徴は、集落遺跡で発見されるものと墓地遺跡で発見されるものとに大きな特色の差が出現することにある。

集落遺跡で発見される器台には、上東式及びその在地化した様相をもつもの（D）、播磨・但馬の影響下で成立したとみられる器形のもの（E）、山陰地方の影響下にある器台（F）などがあり、中期の



※図中の横の並びは、必ずしも
厳密な編年の秩序を表していない。

図1 中期の器台形土器系統想定図(縮尺約1/16)



※図中の横の並びは、必ずしも
厳密な編年の秩序を表していない。

土器出土遺跡

高本遺跡 (1)、紫保井遺跡 (2, 6)、崩塚遺跡 (3)、西吉田遺跡 (4, 5, 11, 17)、金井別所遺跡 (7)、一貫西遺跡 (8, 12)、ビシャコ谷遺跡 (9) 押入西遺跡 (10, 13~16)、大田十二社遺跡 (18, 24, 32, 33, 36)、落山遺跡 (19)、大畑遺跡 (20, 25)、東蔵坊遺跡 (21)、稻荷遺跡 (22)、一貫東遺跡 (23)、小原遺跡 (26)、荒神遺跡 (27)、京免遺跡 (28~30, 34, 38~40)、二宮遺跡 (31, 37)、領家遺跡 (35)、法事坊遺跡 (41, 42)、天神原遺跡 (43~45)、オノ峪遺跡 (46)

図2 後期の器台形土器系統想定図(縮尺約 1/16)

器台が基本的に一種にとどまっていたこととおおいに異なる様相を呈する。また、時間の推移とともに小形化の傾向を増し、後期中葉以降は山陰地方の影響下で成立したとみられる鼓形器台を除いてほとんどみられなくなる。

一方、墓地遺跡では同じ頃葬送儀礼に使われたとみられる装飾性の強い大形の器台がしばしば発見され、中期の垂下口縁形器台も墓地遺跡でその命脈を保つらしい(46)。

津山市では、在来形の装飾器台衰退期に併せ特殊器台が出現し、下横野上原遺跡、総社下道山遺跡、小原権現山遺跡、皿丸山遺跡、田邑有本遺跡で発見されている。

鼓形器台は、後期後葉以降盛行し古墳時代までその存在がかなりな数みとめられるが、集落・墓地ともに出るといふ特徴がある。

なお大田十二社遺跡発見の33の器台は若狭地域でみられる器形で、その胎土の特徴などからは但馬方面からの搬入品とみられる。

「東蔵坊遺跡」－B地区－	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第9集	1981
「高本遺跡」	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書8	1975
「領家遺跡」	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書8	1975
「椋山遺跡」		1979
「天神原遺跡」	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書7	1975
「京免・竹ノ下遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第11集	1982
「野介代遺跡」	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書3	1973
「押入西遺跡」	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書3	1973
「二宮遺跡」	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書28	1978
「金井別所遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第25集	1988
「オノ峪遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第18集	1985
「大田十二社遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第10集	1981
「大畑遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第47集	1993
「崩塚遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第28集	1989
「一貫東遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第43集	1992
「小原B・稲荷遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第35集	1990
「一貫西遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第33集	1990
「ビシャコ谷遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第16集	1984
「西吉田遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第17集	1985
「小原遺跡」	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第38集	1991